

私は、小野田支部を活気あるものに戻そうと思い、支部役員会を招集するも、活発な意見は出ずじまい。また私も口で言うばかりで、この後の行動が伴わないという「体(てい)たらく」。

支部の頭である私から、他の者へと代わる事も考えたが、今の状況で代わっても、次を任された者は堪ったものではなからう。

やはりここは、私自身が行動を起こす事が肝要であろう。

そして支部役員と一体となり、前へ進めて行くしかないように思える。

#### ◇小野田支部の活発な活動の復活を目指す！

地震国日本での地震で、はっきりと記憶しているのは平成 7 年(1995 年)の「阪神淡路大震災」で、次に記憶に残るのは平成 23 年(2011 年)の「東日本大震災」である。

この二つの地震後に、何かしなくてはならないと考え、小野田支部内で『誰でもできる「我が家の耐震診断」』の講習会を、一般市民に向けて開催した。

この後、平成 28 年(2016 年)の「熊本地震」や、まだ記憶に新しい 令和 6 年(2024 年)の「能登半島地震」の地震があり、心を痛めた。

何度か開催を続けていたが、途中に「新型コロナ感染症」で中断となり、それ以降、支部活動が延滞し始めた小野田支部だが、しかし、昨今の地震が頻繁に発生している現状を鑑みると、『誰でもできる「我が家の耐震診断」』を再開することが急務のように思えてきた。

昨年の春か夏頃には再開するつもりが、仕事や他の用件で多忙となり、延び延びとなり今に至っている。情けない限りである。

だが今こそ、本気で活動復活を目指す時期に来ていると考える。

#### ◇「まちづくり委員会」を体験させてもらったが、しかし・・・。

私は、令和 5 年度から令和 6 年度に渡り、「まちづくり委員会」に、委員の一人として活動させて頂いた。

任期中には、令和 6 年 1 月 20 日・21 日の両日で行われた、徳島での「中四国ブロックまちづ

くり委員長会議」に、原田委員長の代理として、水谷糸絵委員と私の二人で参加させてもらった。

私の旅の苦労話を御披露させていただく。

車で 5 時過ぎに新山口駅に向かう。新山口駅を 6 時半過ぎ発の新幹線で岡山駅まで行き、そこから快速で瀬戸大橋を通過して香川県の高松駅、次に特急で徳島駅まで行く。この時点で 10 時過ぎ。

更には、普通列車で高知県境近くの牟岐(むぎ)駅まで。到着は 13 時 21 分。

ここ迄でも大変なのに、追い打ちを掛けるように、牟岐港から小型船舶で手羽島(てばしま)の手羽島港を目指す。牟岐駅には徳島の委員の方が迎えに来て下さっていた。それもその筈、駅から船の乗船迄に 9 分しかない。港に着き、どうやら私が最後の乗客だったらしく、エンジンは既に掛かっており、桟橋が直ぐに外され、乗船すると直ぐ直ぐに出港するという状態だった。

15 分間という短い船旅だったが、小型船舶は出羽島港に 13 時 45 分に着岸。

この出羽島には店は 1 軒も無く、港の自動販売機の 1 台だけ・・・。嘘でしょっ！？

島に到着して直ぐの、14 時から民家を改修した「波止の家」で令和 5 年「中四国ブロックまちづくり委員長会議」が催される。中四国各県から来られた方々の活動の発表。この後は場所を移して懇親会となる。料理等はお店が無いので本土の牟岐町から送られてきていた。

宿は近くの民家を改修した処で、お風呂やトイレは屋外の離れ・・・昔の情景を見ているようだった。朝食は勿論、牟岐町から運ばれてきていた。

翌朝は、出羽島の「まち歩き」と言うより、「集落めぐり」という感じ。豪勢な民家は無かったが、とても人間臭く心地よい処だった。

その後は、移住されてきた方がされている「人と自然が共同創造する“食べられる森”」の山で、生まれて初めて「記念植樹」を経験させてもらった。

訪ねてくる迄は苦労もしたが、帰る頃には、とても居心地の良い、忘れ難(がた)き島となり、いつまでも心に残ることになるだろう。

委員として、他に令和 6 年 2 月 23 日の熊本での全国大会、令和 6 年 11 月 30 日の広島でのブロック会議にも参加させてもらった。